

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300016		
法人名	有限会社FKKサービス		
事業所名	グループホームうれし家		
所在地	岐阜県養老郡養老町鷺巣1125-17		
自己評価作成日	平成30年10月2日	評価結果市町村受理日	平成31年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2192300016-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2192300016-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは職員を含めて「自分や自分の家族を利用させたい」という気持ちを大切に業務にあたっています。家族しか出来ない事もありますが、家族だから出来ない事もあり、そこをサポートするのが私たちグループホームだと思っています。どれだけ多くの利用者が参加できるレクをするかではなく、少人数制を活かして、個人の希望にどれだけ対応できるかに挑戦したいです。往診医と訪問看護を一新し、在宅枠のホームの良さを復活させたい、と少しずつではありますが改革を進めています。看取りもその一つで自宅で看取りが出来るようサポートも始めました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念「人と人との温かいふれあいの心を大切に…」を基本とし、職員は「自分や自分の家族を利用させたい」と思えるグループホームを目指し、日々、利用者への支援に取り組んでいる。また、日常生活の中に、様々なレクリエーションを組み入れ、楽しみながら健康維持につながるよう工夫している。在宅医療専門医、訪問看護師、薬剤師等の医療連携により、本人・家族の安心と共に、職員も不安なく従事することができている。管理者、職員は、利用者本位の個別支援に全力で対応し、利用者が一番望む「自宅での看取り」支援についても、研修を重ねながら取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護福祉の中でのグループホームの位置づけや、特色を知り、少人数制を活かせる個別対応を進めている。	ホームの理念「人と人の温かいふれあいの心を大切に…」を基本に、支援に取り組んでいる。尊厳と自立の尊重を初め、全4項目の理念を職員の目につきやすい場所に掲示し、日々のケアを振り返りながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員の職員が多い事と家族からの情報や参加により、町内の行事や買い物、喫茶店などに赴いている。	自治会に加入し、地域行事や清掃活動、防災訓練等に参加をしている。また、地域とのつながりを持てるよう、日常の買い物は、出来る限り地域の店を利用している。事業所のクリスマス会は、ボランティア団体の協力を得て行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流がしやすく理解を求めやすいのはやはり家族なので、家族を通じて広がっていくのも良いな、と思っている。家族会や運営推進会議に出席してもらえるように考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加される方によって、アドバイスをもらえる時や、逆に相談されたり意見を求められたりと毎回様々である。家族の中には福祉の仕事をしている方もみえ、ご理解を頂きやすくなったと感じている。	運営推進会議には、区長や民生委員、家族等が参加している。事業所の状況や取り組み内容を報告し、意見交換しながら助言を得ている。地域高齢者の課題、事業所の役割、災害時における停電被害の対応について話し合うなど、地域と事業所の関係性を深める会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	家族の要望でよかれと思ってやる事も、運営上問題があることもあるので、迷った時はその都度相談している。また、利用者の対応で困った事があった時はまず行政に相談している。	行政とは日常的に連携し、困難事例や法改正について、相談や助言を得られる関係にある。また、多職種連携会議に積極的に参加し、様々な情報交換と共に空き情報を発信し、利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年々介護度が上がってきており、現在車いすの方が夜間ベッドから何度も転落しかけているので、どうすれば良いか悩んでいる。	身体拘束ゼロの取り組みを行っている。夜間、ベッドから転落のリスクがある利用者の中には、家族にベッド柵の利用を提案し対応している。身体拘束廃止委員会の開催や職員研修など、具体的な計画を立てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あからさまな眼に見える虐待から、言葉の暴力と様々だが、最近では「選択権がない」というのも虐待に近いのでは。と思っている。服を選べない、食べたいものが食べられない等。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が実際に入所されているので、利用する事になった経緯から内容まで具体的に把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金体系や利用者に関わる他協力事業者が変更になる時は、一人一人、面会時か電話で説明した上で、書面での理解を求める事になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告をした上で、今後のケアの要望や心配事を聞く事が多い。病院の付添いなど運営上難しい事もあるがその都度話し合いながら進めていくよう心がけている。	職員と家族との「連絡ノート」を居室に置き、利用者の日常生活の様子や健康状態など、具体的に記録し、伝えている。利用者の状態を率直に説明することで、家族との信頼関係を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一緒に業務に入ったり休憩時間の雑談の中から、色々な意見を聞くことができる。それを毎月の職員会議の議題にあげている。	管理者は、職員と共にケア業務に就いており、その都度、意見や提案を聞き、改善につなげている。また、働きやすい職場環境作りにも取り組んでいる。訪問看護の導入により、医療的対応の不安が軽減され、職員の安心につながり、定着率も良くなっている。	利用者の健康や機能維持のため、リハビリを兼ねた健康体操を職員と共に行う企画を計画中である。その実践に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれに合った係をつけ、責任を持って担当してもらう事でやりがいを感じてもらいたいと思っている。また、外部講習会などがあれば参加を募り、勤務も柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の資格取得への有給休暇、それぞれ興味があることや苦手な分野を理解し、相応の研修に赴いている。研修後は必ず1つ実践できるよう計画を立ててもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターなどが主催する多種職連携会議や、町内のグループホーム協議会の開催を通じて相談したり、アドバイスをもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは「本人の居場所づくり」を大切にしている。入居前の聞き取りで気にかける情報として本人の性格が大きい。気持ちが落ち着くと自力でできる事が増えることはよくある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護歴を話してもらい、家族と本人の1日の流れを教えて頂く。その話の中で自然と苦労や悩みが出てくるので具体的にホームでどのようにケアしていくかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がホームでどのように暮らしていきたいのか、出来るだけ維持したい事は何かを把握して、支援が必要だと思われる時は、カンファレンスを開いてサービス提供をできるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が1人で出来なくても、職員や他利用者が一緒に行くことでクリアできる作業はたくさんある。1日の予定をあまり作らず、生活作業をともにする時間を取るようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護度が上がると面会も減ってきてしまう傾向にある。本人が「家族」と認識できない場合でもともに本人を支えていけるように精神的なフォローをしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近では自宅からホームへの入居が減っており、老健やショートを長期間利用している事で既に関係が途切れてしまっている方も多いが、ドライブで景色を喜ばれるので、もっと機会を増やしたいと思っている。	地域密着型サービスである事業所の意義を大切に、「おうち廻り」と称するドライブを計画し、馴染みの場所へ出かけている。利用者は、地元住民でもあり、訪問者も多く利用者と顔見知りである事から、ホーム通信を手渡し、事業所の理解につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置が換わったり新しい利用者が入居された時などは、共同作業を通じて利用者同士がお互いになじめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や入院された際は、仲の良かった方と面会に行ったり、退居された後も家族とは手紙や電話などで交流が続く時もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメント時に生活歴などをお聞きして、希望や意向に添える支援に努めているが、困難な場合は家族、ホーム、医師などを交えて本人に合った生活が出来るよう話し合っている。	これまでの生活歴、表情や会話の中から、利用者の本音を汲み取るよう努めている。知り得た情報を申し送りノートに記録し、職員間で共有している。把握が困難な場合は、家族からの情報、新聞記事やテレビ番組を話題に声かけし、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自社のアセスメントに留まらず、かかりつけ医やサービス提供元からの情報も把握することにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や現時点でのADLを把握しておくことで、本人の過ごし方の希望にどこまで添えるのかを検討するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が何を大切に生活していきたいのか(身体能力を低下させず自分の事は自分でやっていきたいのか、話す事が好きだから時間に余裕を持って暮らしたいのか等)を優先順位をつけて、個々にサポート出来るよう担当者会議で話し合い、計画を立てている。	サービス担当者会議には、訪問看護師が同席している。家族との「連絡ノート」の内容を参考に、職員全体で意見交換しながら、介護計画を作成している。状態の変化時には、柔軟に見直しを行っている。	介護計画の内容を話し合うサービス担当者会議には、利用者の代弁者として、家族が参加できるように、日程調整の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録として「気づきノート」を作成しており、心身状態の変化や往診の記録、訪問看護記録を書き留めている。去年までは3種類のノートに分かれていたが、1つにまとめる事で、分かりやすく共有しやすくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が出来るように、余裕のある日は個別対応として図書館や喫茶店、買い物へ行く事にしている。最近家族に月1度は何らかの関わりを持ってもらうようにしている。電話、手紙、外出など。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別対応の日に買い出しに行ったり、独居だった方は自宅の様子を見に行っている。その場合は家族にお願いしたり1対1で付きそう事にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は定期的な健康診断や訪問看護と医師とが連携して健康管理をしている点から、全員ホームの協力医と契約している。それ以外の眼科や皮膚科は入居までに受診していた病院をされており、家族に付添いをお願いしている。その際、サマリーを渡すなどして、情報交換出来るようにしている。	契約時に、かかりつけ医について説明し、全員が協力医を選択している。週2回の往診がある協力医は在宅医療専門医でもあり、訪問看護師と共に連携している。個別記録や職員の「気づきノート」で、利用者の情報を共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科往診、訪問看護ともに1週間に2日ずつあるので、小まめな情報共有ができ早い時点で処置ができる。情報共有の方法としては、気づきノートにそれぞれの往診記録を残すことで対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との関係作りは、行政が多種連携会議や、居宅会議を主催してもらえるようになってから、良い方向に進んでいる。会議が増えてから医療と介護の垣根を感じなくなってきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、家族によっては最期は自宅での看取りをすすめている。それが出来るのも、往診専門の協力医と訪問看護に切り替え出来たからだと思っている。	重度化や終末期の支援について、契約時に説明し、本人・家族の同意を得ている。状態の変化に伴い、十分に話し合い適切な対応を行っている。協力医が在宅医療専門であり、自宅で最期を過ごすことも可能とし、利用者や家族が一番望む方法での看取りを行っている。職員も看取り介護の研修を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を年に2回防災訓練に合わせて受講している。心肺蘇生については、入居時に同意書ももらっているため、それに乗っ取って蘇生することになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害に関しては、運営推進会議で、ハザードマップから、当ホームは変に避難せず留まった方が良いという事になった。避難の場合は、家族に養老町災害時緊急メールを登録してもらい、避難勧告が発令された時点でお迎えに来てもらうことにした。	年2回、夜間想定を含めて災害訓練を行っている。災害時の対応については、地震や水害時にも、家族の理解と協力を得られる体制がある。運営推進会議においても、緊急時の対応方法を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレでも居室でも怖いから開けておいて！と言われる方も何名かいらっしやるので難しいですが、今年からカーテン設置してみると調子が良いです。	職員は、理念である「尊厳と自由の尊重」を常に意識し、利用者一人ひとりの思いに寄り添い、傾聴に努めている。居室及び浴室、トイレにカーテンを設置し、利用し易さより、個々のプライバシーの確保を優先してケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何がどれくらいできるか、で要望の内容や数も差があるのでなかなか難しいが興味のあることは出来る限りレクなのでも取り上げるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴1つを取っても、決められた時間があるのでどうしても流れ作業になってしまう。利用者側からもっとたくさん希望があるだろうが、生活スタイルそのものではなく、その時その時の希望に対応している、という状況である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目や衣替えの時に新しい服を1着買って頂けるか聞く事にしている。利用者もとても喜ばれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の果物や野菜を頂いたときは、何を作るか相談しながら皮むきを手伝ってもらえる。	管理栄養士が作成した献立で、季節の野菜を取り入れた手作り食を提供している。できる範囲で利用者も調理作業に関わり、食前には、嚥下体操を行っている。近隣からの差し入れも多く、貯蔵方法や調理方法など、利用者から職員が教わることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの助言もあり、1日トータル1000cc以上は水分補給できるよう努めている。無理な方はゼリーなど、水分含有量の多いものをおやつに出したりしている。最近はココアが流行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導のもと、口腔ケアを行っている。義歯の方が多いので、食事の際、噛み合わせや義歯のがたつきをチェックして訪問歯科につなげている。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の心身状態によって、排泄やそのパターンは短期間で変化するので、パットの使用も含め、大きさなども日々変化していく事が多い。おむつチェック係があり、毎月の職員会議で見直しをするようにしている。	トイレでの排泄が習慣になるよう、声掛けと誘導で自立に向けて支援している。排泄用品は、時間帯や利用者の状態に合わせて、毎月見直しを行っている。夜間は、安全面に配慮して、ポータブルトイレを使用する人もある。排泄リズムを整えるため、「便秘体操」を継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	車いす生活の方は特に便秘になりやすく、解消されにくいので、今年からレクとして「便秘体操」を始めた。てきめん効果は現れたとは言えないが、頑固な便秘は減ったように感じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方、嫌いな方、汚染してしまった方など、入浴日を決めていても出来るだけ入浴を楽しんでもらえるように時間に余裕をもっている。	週2-3回の入浴を基本にしているが、柔軟に希望に応じている。ジャグジー付きの特殊浴を導入した事から、全員が機械浴を希望となり、職員の介護負担の軽減にもつながっている。利用者の体調に合わせて、足浴、シャワー浴でも支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ドアを閉め切ることが怖い方もいれば、鍵までかけてしまう方もいるので、ドアにカーテンをつけてフロアの様子がかがえたり出来るようにした。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい利用者が入居されるたびに、既往歴やお薬情報から病気や薬の副作用を学ぶようにしている。重度化してきた利用者が錠剤を服薬できず粉砕するにも、していいものとダメなものがある事も勉強になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢者がみんなレク好きなわけでもない。騒がしいのが嫌いな方もいるので、全員でレクをする事は大きなイベント時だけにしている。レクではなく、個別対応で本当にやりたい事をしてもらいたいと思っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症状や身体的に外出が困難な方は多い。希望があれば家族の協力の下外出支援しているが、それが出来ない方は、家族からの電話、手紙、面会などでホームの外とのつながりが持てる様に支援している。	天候や利用者の健康状態を見ながら、近隣を散歩したり、庭での外気浴を行っている。また、近くの養老公園に行ったり、季節の花見などには、弁当持参で出かけている。墓参りや家の行事など、個々の希望は家族に依頼している。	



岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在居室内で金銭の所持は禁止している。本人が管理できても、他利用者がその方の居室に入ったりしてトラブルになったためである。事務所で預かりし、現金出納帳をつけて管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族にお願いして月に1度、必ず手紙や電話、面会などで関わりを持ってもらうようにしている。最近はパソコンに写真を送ってもらっているが、利用者がとても喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	近所の方や家族、スタッフが花を持ってくれば、お花を習っていた利用者が生けてくださる。また季節ごとに壁画や飾り付けを作ってもらい、いつでも目で楽しめるように工夫している。	共用の間は、掃除が行き届き、清潔感がある。車椅子でも、安全に往来できる広さがあり、適切な空調管理も行っている。季節の花を生け、利用者と職員が共同で作った季節感ある作品も飾っている。居室や居間などは、カーテンを工夫し、異なる雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	男性は居室でラジオやテレビを観られていることが多いが、女性は話すことが尽きてもフロアにいらっしゃる事が多い。スタッフの動きを見ているのが楽しいと言われる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用料には居室料金も含まれているので、基本的には改造をしない限り、本人や家族の思う部屋作りをしてもらっているが、時々食べ物を置いて行かれたり、ベッド柵に紐で写真を飾って行かれたりして危険なため、声をかけて撤去する事もある。	居室の入り口には、自分の部屋が分かるように、本人専用の小物をつけている。使い慣れた布団、整理タンス等を持ち込み、安心して暮らせる部屋作りをしている。居室には、緊急コールが備え付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視野が狭く自分の居室やトイレの確認がしにくい方は、夜間は廊下に蛍光テープを貼って誘導したり、自分の居室にチャイムをつけてもらう等の工夫をすることで、付添いがなくてもフロアを移動されている。		